

(様式2)

遺伝子組換え実験計画書（学内用）

平成 年 月 日

申請の種類 (注1)	実験の区分	拡散防止措置 総合判定	
☐ 新規 ☐ 継続 (年 月 号) ☐ 変更 (年 月 号)	☐ 微生物使用実験 ☐ 大量培養実験 ☐ 動物使用実験 (☐ 作成実験 ☐ 接種実験) ☐ すでに作成済みの動物を購入するか譲渡を受ける実験 ☐ 植物使用実験 (☐ 作成実験 ☐ 接種実験 ☐ きのこ作成実験) ☐ 細胞融合実験 すべて大臣確認が必要です)	科研申請と	
		☐ 連 動 ☐ 非連動	
		動物を ☐ 使用する ☐ 使用しない	確認※ (注2)

実験実施機関	所 在 地	(〒390-8621) 長野県松本市旭 3 - 1 - 1		
	名 称	信州大学		
	代表者の職名・氏名	信州大学長		
課 題 名				
実験実施期間 (最大5年)		年 月 から 年 月 まで		
実験責任者	所属部局の所在地	(〒)		
	所属機関・部局・講座等・職名	信州大学		
	氏 名	フリガナ		
内線		E-mail		
(注3) 連絡者	氏 名	内線	E-mail	
所実験場	所 在 地	(〒)		
	名 称			
実験従事者	氏 名	所属部局・職名	宿主及びその取扱いの有無および経験年数 (注4)	組換えDNA実験 経験の有無および 経験年数

DNA供与体の特徴及び生物学的リスクの有無など (注5)		☐ 無 ☐ 有（ 特にタンパク性毒素産生能 ☐ 無 ☐ 有（毒素名： LD ₅₀
単離予定のDNA又は供与DNA並びにその産物の特徴及び性質(注6)		
非認定宿主ベクター系を使用する場合	ベクターの特徴、伝達性、宿主依存性	☐ 該当しない
	宿主の特徴、遺伝子交換範囲とその機構（注7）	☐ 該当しない
	宿主－ベクター系の特徴、生物学的封じ込めの程度及び不活化の方法(注8)	☐ 該当しない
組換え動植物を作出する場合、DNA導入の段階及びその方法 （作成されたものを購入または譲渡を受ける場合は記入の必要なし）		☐ 卵 ☐ 胚 ☐ 培養細胞 ☐ 成体 ☐ 自然交配 ☐ その他（ 導入方法：
組換え動(植)物の入手先 （所属、氏名又は購入先）		☐ 該当しない
接種実験において遺伝子組換え生物を接種される予定の動植物又は細胞等の特性（注9）		☐ 該当しない
遺伝子組換え生物等の接種を受けた動植物が新たに獲得すると予想される形質（注10）		☐ 該当しない
動物実験施設外で動物を扱う場合の措置 (注11)		☐ 該当しない 動物実験施設外で遺伝子組換え実験に関わる動物を生きたまま扱うか、または動物実験施設から生きたまま、動物を持ち出すか ☐ はい ☐ 動物実験施設で処理してから持ち出す 前者の場合、実験室に逃亡防止措置（ネズミ返しなどの設置）がとられているか ☐ はい
遺伝子組換え動物、同植物の実験処理後の処置		☐ 該当しない

	実験室名	名称のみ（図面は不要）	事務確認欄※
	（実験室名は認可を受けた室名のおり記入すること）		☐
拡散防止措置に係る施設・設備	P 3 実験施設にて実験する場合はその名称 （実験区域の位置を図示してください）	□該当しない	

計画書記入要領

本様式の各項目に記入する。記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

- 注 1. 変更の場合は前回確認を受けた年月及び確認番号を記入すること。
- 注 2. ※印欄は申請者は記入しないこと。
- 注 3. 確実に連絡が取れる実験従事者を記入すること。実験責任者と同一の場合は記入する必要はない。
- 注 4. 宿主が微生物、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。
- 注 5. DNA 供与体について、実験従事者に対するリスク（自然界における分布、病原性、寄生性、腐生性など）について記入すること。また、蛋白性毒素を産生する場合はLD50 及び毒素遺伝子の名称を記入すること。
- 注 6. 同定済みDNA の場合は塩基配列の同定に関する論文又は遺伝子コード番号を引用（それらが無い場合は、それにかわる資料を添付）
- 注 7. 微生物を宿主とする場合は、栄養要求性、薬剤耐性、至適生育条件等の特徴を、培養細胞をウイルスの宿主として使用する場合は、宿主内における宿主の核酸や共存するウイルス由来の核酸との遺伝情報の交換の可能性について記入すること。また、宿主に病原性、発がん性及び毒素産生性がある場合は、その説明についても記入すること。
- 注 8. 宿主の生存能力、伝播性、不活化の方法と予測される不活化の効率を記入すること。また、ウイルスを使用する場合には、そのウイルスの伝播性に対する生物学的封じ込めの程度を記入すること。
- 注 9. 接種実験において遺伝子組換え生物を接種される予定の動物／植物又は細胞等の、分類、生態、繁殖様式、危険性などを記入すること。
- 注 10. 感染性、病原性、寄生性、腐生性又は毒素産生性等の形質が変化すると予想される場合は、その旨明記すること。
- 注 11. ここでの動物実験施設とはヒト環境科学研究支援センター動物実験部門動物実験施設等のP1A, P2A の認定を受けた施設等をいう。

（2009.3 改）